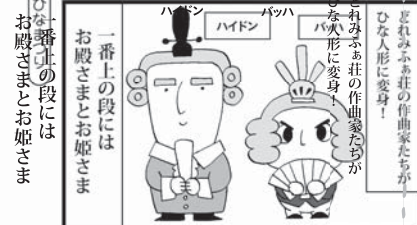




おぼろさままつろこ  
漫画: 東園子



今月号よりリニューアルしました!

「勇気づけのピアノレッスン」の連載が、今月号より3年目に突入しました。タイトルは、私が書いた「書」です。決して上手な字ではありませんが、魂を込めて書かせていただきました。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

「健全な人は、相手を変えようとせず自分が変わる。  
不健全な人は、相手を操作し、変えようとする」

(アルフレッド・アドラー『人生に革命が起きる100の言葉』ダイヤモンド社出版 小倉広著より)

勇気づけの  
ピアノレッスン

第25回

「アドラー心理学」では、コミュニケーションの方法について具体的な提案をしています。例えば、子ども(生徒)が、ちゃんとピアノを練習しない時、あなたはどうか対応しているでしょうか?もしかしたら、「なぜ、この子は練習してくれないだろう。私がこんなに一生懸命、練習の必要性を説明しているのに。」「練習さえすれば、もっと上達するのに。」と思われたことはないでしょうか?もちろん、それはごく自然で当たり前の気持ちです。では、その気持ちをどのように伝えていきますか?子どもが思い通りにならないことにイライラして、怒りや嘆きの感情をぶつけてしまったりすることはありませんか?それは、もしかしたら「感情」を使って、子どもを変えようとしているのかも。そして、誤解を恐れずにもっと言うてしまえば、自分の都合の良いように操作しようとしているということも、場合によってはあるかもしれません。

「相手(この場合は子ども)をより良い方向へ導きたいのであれば、まずは自分から変わる。」というのがアドラー流の考え方です。あなたが心から子どものことを考えているのであれば、今までのうまくいかなかった方法を見直す必要があるのかもしれない。つまり、練習を一方向的に押し付けるのではなく、どうすれば練習できるようになるのかを子どもと共に考え、計画し、実行できるようサポートするという導き方があります。ピアノを弾くのは、あくまでも本人です。「口を酸っぱくして言っても聞かない」のであるならば、今すぐそれをやめた方が良いでしょう。過去と他人は変えられません。変わることができるのは自分だけなのです。

松井美香 まつい・みか

「勇気づけの音楽家」東京音楽大学ピアノ専攻卒業。学研『愛のピアノレッスン』にて手記を執筆。  
<HP>松井美香ピアノ教室 <http://matsuimika-piano.net>  
<ブログ>ピアノの先生のためのモチベーションアップ術 <http://ameblo.jp/makeeachangewithlove>  
\*無料メルマガ好評配信中(ご登録はブログにてお知らせしています)

参考演奏  
CD付き

弾きたい!聴きたい!ピアノ名曲シリーズ

編:編集部  
演奏アドバイス:黒田篤志

あらゆるシーンで大活躍!!  
日々のレッスンに  
発表会の選曲に



■各:菊倍判/48頁/CD付き/本体価格1,000円(税別)

動物行動学者、岡ノ谷一夫さんによる絵本「言葉はなぜ生まれたのか。面白かったあ!今月のおすすめです! (く)」

subuyaitter..... follow me

twitter やってます! @gakkenmusic 日々のよしなしごとや最新情報をツイートしています!

Web版もあるよ! バックナンバーが閲覧できる! Web版ならではの情報が満載!

学研 おんがく通信 3月号 2016年2月25日

Gakken 株式会社学研プラス 音楽事業室  
〒141-8415 東京都品川区西五反田2-11-8 TEL:03-6431-1220

学研 おんがく .net  
<http://www.gakken.jp/ongaku/>  
電子書籍ストア 学研BookBeyond  
<http://bookbeyond.jp/>  
twitter @gakken\_music  
Facebook gakken.music

春風を感じる時期となりました。町中から流れる音楽はひなまつりムード。ゆったりとしたテンポで流れる和楽器の音を聴くと力が抜けて、ぼーっとしてしまいます。お日様が長くなって体はほかほか。桜はひらひら。良い季節。(お)

ショパン・コンクール  
少しだけ★歴史おさらいクイズ

2015年、第17回ショパン国際ピアノ・コンクール(以下、ショパン・コンクール)が終わりました。優勝は韓国出身のチョ・ソンジン。N響の定期公演で早速演奏を披露。巨匠フェドセーエフ指揮の元、ピアノ協奏曲第1番を演奏し聴衆を魅了しました。担当(く)もテレビで大に楽しみました。コンクールのライブを収めたCDも素晴らしいですよ。今後の彼の活躍に期待です!  
ここで、ショパン・コンクールの歴史の一部を、クイズ形式でおさらいしてみましょう!

Q.1

チョ・ソンジンのほか、過去に二人のアジア人が優勝しています。名前と国名は?

A ダン・タイ・ソン(1958年生/ベトナム)、  
ユンディ・リ(1982年生/中国)

ダン・タイ・ソンは1980年第10回における、アジア人初の優勝者です。戦時下(ベトナム戦争)、防空壕の中でも紙鍵盤でピアノを練習し続けたというエピソードはあまりにも有名です。この回は、クロアチアのピアニスト、イーヴォ・ポゴレリチ(1958年生)の演奏をめぐり審査が紛糾した、いわゆる“ポゴレリチ事件”でも注目されました。ちなみに日本人では、1970年第8回出場の内田光子の第2位が最高位です。

Q.2

1937年、二人の日本人が初めてコンクールに出場しました。「特別聴衆賞」を受賞したピアニストの名前は?

A 原智恵子(1914年生-2001年没)

1937年第3回に、甲斐美和子とともに出場しています。ラザール・レヴィに師事し、パリ国立音楽院を首席で卒業した原は、ヨーロッパで高い評価を得ていました。ショパン・コンクールでは第15位という結果に。これに対し聴衆が憤慨し大騒ぎになったため、急速「特別聴衆賞」が設けられたのだそうです。その後、演奏活動のほか後進の指導にも尽力しました。

ご興味がある方は下記サイトへ...  
原智恵子公式サイト  
<http://columbia.jp/~chieko/>

Q.3

2015年、コンクールの公式ピアノに採用された4つのピアノ・メーカーは?

A スタインウェイ(アメリカ)、ヤマハ(日本)、  
カワイ(日本)、ファツィオリ(イタリア)

NHK BSで放映された「もうひとつのショパン・コンクール」をご覧になった方も多いと思います。コンクールは演奏者だけでなく、ピアノ・メーカーの戦いの場でもあるわけですね。演奏者がどのピアノを選ぶか、それぞれのメーカーの調律師に焦点をあてながらその攻防を追うという、大変興味深い番組でした。ちなみに、それまで見向きもされなかった日本のメーカー2社が、公式ピアノに採用されたのは、両社同時の1985年第11回のことでした。

ピアノの森から  
\*田丸信明先生のすてきなオリジナル曲をご紹介します\*

第22回

昨年9月に新しくなった『新訂ピアノの森』第1巻、第2巻、第3巻の最大の特徴は、巻末に“連弾”の曲が追加された事! その他の収録曲はこれまでと変わっていません! そこでこのコーナーでは新たに収録された“連弾の曲”を1曲ずつご紹介しています。5回目の今回は第3巻に収録された伝J.S.バッハ(ペッツォールト作曲)の〈メヌエット長調〉。なんと“変奏曲”にアレンジされているのです! 詳しくは次回ご紹介いたします。コメントサイ... (か)



今月のあかね先生

## PICK UP! 受講者の声

先日、久しぶりにあかね先生のセミナーに同行しました。このコーナーでもたびたびお伝えしていますが、先生のセミナーは体験型。今回も“あかねピアノ教室”の生徒になりきって受けましたが… 2時間じゃ足りない！もっと受けたい！と感じるほど、充実した楽しいセミナーでした。そこで今回は『子どもが飽きない！「リズム」のレッスン』を受けられた、ちょっと大きな生徒さん…いえ、受講者の方からの感想をピックアップしたいと思います♪(ゆ)

受講者

実際のレッスンのように講座を体験できて、とても分かりやすかったです。リズムを上手にレッスンに取り入れていきたいと思いました。りんごのペーパークラフトはぜひ作ってみたいと思います。

担当(ゆ)：そうなのです！生徒さんへの効果的な声かけや接し方などを知ることができるので、とても参考になるというお声をたくさんいただきます。そして、りんごのペーパークラフトは、音価が目に見えるので理解しやすく、幼児でもわかりやすいと好評です。『リズムのほん』のテキスト第1巻に付録としてついていて、レッスンでも取り入れてみてくださいね。ちなみに、あかね先生はクラフトの中に磁石を貼って使っています。この方法、おススメなのでぜひお試しください！



◀りんごのペーパークラフト

弊社ホームページ「おんがく.net」の「あかね先生のひとりごと」内、2013年5月14日のブログ記事で、ペーパークラフトの中に磁石を貼る方法をご紹介します♪  
※磁石は付録ではありません。



### \*今月のセミナースケジュール\*

3/9(水)：[埼玉県/さいたま] 山野楽器 イオンモール浦和美園店 『楽しくおぼえる「おんぶ」と「けんぱん」のレッスン』

3/15(火)：[鹿児島県/鹿児島] 宝山ホール(鹿児島県文化センター) 『子どもが飽きない「リズム」のレッスン』<リズム・セミナー/導入編>

## 発掘！ オリジナル攻略法

No.3

### ～ポリフォニーの第一歩～

〈メヌエット〉クリーガー作曲  
『新選ピアノ名曲120 初級 (P.13)』収録

2曲目はJ.クリーガー(1652-1735)作曲の〈メヌエット〉です。両手はそれぞれ単旋律ですが、ポリフォニーであるため少し難しくなります。調性はイ短調。〈カンツォネッタ〉は八長調でしたから平行調ですね。今回の攻略法は次のとおりです。

1. **タイトル、時代、作曲家、形式から曲の様式を把握する。**
2. **音型やリズムから理論的に表現を考える。**
3. **ほしい音を出すための指や手首の使い方を決めて、練習の指針にする。**

前回とほぼ同じですが、攻略法の基本的な考え方なので、もう一度確認してみてください。

## レンブラントの絵画？(様式)

メヌエットは3拍子の舞曲。ルイ14世の時代、17世紀半ばのフランス宮廷に現れたジャンルです。さまざまな3拍子の舞曲がある中、むしろクセがないことが特徴です。クリーガーはメヌエットが誕生した頃に生まれた作曲家で、活躍したのはバロック時代の中期から後期。この時代は、ポリフォニー音楽からホモフォニー音楽への移行期でした。曲は第1～8、9～16、17～24小節の3つに分かれます。前回の〈カンツォネッタ〉と同じ三部形式です。第①、③部はほぼ同じ音で、ほの暗いイ短調であるのに対し、第②部は八長調で明るくなります。以上のことから推理すると、左右の旋律線がよく聞こえるようにしながら、明暗のコントラストを若干意識して、あまり派手に過ぎないようにまとめる演奏が、この〈メヌエット〉にはふさわしいようです。レンブラントの絵画のようなイメージでしょうか。

黒田篤志 くらだ・あつし

1973年生まれ。早稲田大学修士課程修了。日本アマチュアピアノコンクール7位入賞。出版社にて楽譜と書籍の編集を担当。現在小山市で、大人のピアノ教室“Lento レント”を主宰するかたわら、フリーの編集者、ピアニストとして活動中。  
http://ameblo.jp/pianote0519/

## 動機の音型に注目！(理論)

動機は、第1～2小節で右手に、そして第2～3小節で左手に現れます。ちょうど1小節ずれています。第4～8小節は右手のリズムが細かくなっています。音楽を盛り上げるための技法です。第①部はイ短調です。第②部に入り八長調に転調します。mfを意識して音色を変えてください。左手は下降型になり、リズムも少し変化します。第9～10、11～12小節がフレージングの単位になりますから、第①部と異なるニュアンスで弾きましょう。第13～16小節の注意点は第①部とほぼ同じですが、左右の並進行で始まる場所が違います。並進行による上昇の勢いを借りてクレシェンドしたあと、第15～16小節でしっかり締めくくります。第③部の最後は終止線にフェルマータがあります。音が消えたあと少し静寂を聴いてから演奏を終えると、効果が上がります。

## ポリフォニーの第一歩(カラダ)

第1～4(17～20)小節で、左右が1小節ずれる動きに慣れましょう。右手の手首は、第1小節で下げ、第2小節で上げます。左手は第2～3小節で同様の動きをします。第9～12小節は、第1～4(17～20)小節と少し異なります。第9～10小節の右手は、第1～2小節と同様の動きです。それに対し左手は、第10小節の最後の2つの4分音符あたりで、徐々に手首を上げていきます。



ポリフォニー奏法の第一歩は、左右の手がそれぞれ独立して動く感覚に慣れること。〈メヌエット〉でぜひマスターしてください！

今回はテレマン作曲の〈ジーク〉をご紹介します。



## いよいよ新学期！

進学、進級など新生活に夢がふくらむ今日この頃。心新たに「新学期」を迎えるにあたって、ピアノのレッスンも準備が進む時季なのではないでしょうか？ そんな今だからこそ、あえて「ドリル」という教材にスポットを当ててみたい…！ ということで

Shed the spot

## 「ドリル」あれこれ！

### ～個性豊か、選べる「ドリル」～

その昔、担当(か)は幼い頃、ピアノのレッスンで「ドリル」のようなものを使っていませんでした。初めて使ったのは小学校中学年ころ、『グローバー・ピアノ』シリーズの「ドリル」の後ろの方の巻です。それまで、レッスンでピアノを弾く以外の時間にはソルフェージュ(視唱、聴音)をやっていたのが、ある日突然“ドリル”なるものを渡され、子ども心に「ピアノを弾くのに、こんなふうを書く勉強もしなくちゃいけないんだ！」と驚いた事を覚えています。ちなみにこの『グローバー』は、1979年に東亜音楽社から出版された\*そうなんです、これが「ドリル」のはしり…と言ってもいいのではないのでしょうか。そして2016年の現在、ピアノのための「ドリル」は多種多様に揃えられていて目が眩むようですね！もちろん、学研も大ベストセラー『新版 おんがくドリル』シリーズはじめ数種の「ドリル」を出版しています。

これらの「ドリル」ジャンルの出版物は、学研のものをはじめ、やはり「ピアノを弾くために譜面を読む」勉強のために作られているものが多いように感じますが、そのなかでも“楽典”、“ソルフェージュ”、また“ピアノ(鍵盤)演奏”…と主眼の置かれ方が少しずつ違います。勉強の方法も、先生と生徒さんと一緒に取り組むもの、自習できるもの…などなど。さらに形態も楽譜(本)ばかりでなく、カード、はぎとり式、パズルまであって、本当に百花繚乱！

さらに、“ドリルシリーズ”として独立しているもの(『新版おんがくドリル』など)に加え、教則本シリーズに含まれるもの(『びあのどリーむワークブック』など)もありますよね。『びあのどリーむ』シリーズの『ワークブック』は『曲集テキスト』に準拠して、楽典から演奏法まで、その時々に必要な事を補うように出ています。このような、いわゆる“シリーズもの”の教本をお使いの生徒さんには、そのシリーズの「ドリル」をお使いいただき、“準拠”ならではの利点を生かしていただくのも一案です。

このようにさまざまな特徴をもった「ドリル」、生徒さん、そして先生、それぞれの個性の掛け合わせに応じて、ぜひ楽しく使い分けてみてください！(か)

\*現在はヤマハミュージックメディアから出版されています。

紹介した教材



ピアノ教室テキスト  
新版 おんがくドリル

▲初級から中級まで、音符、音階、和音、音楽用語等、楽典を総合的に学習できるよう編集された定番シリーズ

上記商品は 新版おんがくドリル1



びあのどリーむ シリーズ  
びあのどリーむワークブック

▲導入時より大譜表を使用して、“まん中のド”(1点A)を中心に音域を広げていく、田丸信明先生オリジナル・メソッドによる初級ピアノ導入教材

上記商品は びあのどリーむワークブック1

## つむりの練習手帳

つむりの発表会の申し込みがそろそろです。今年は習いごとが増えたのをいいことにちょっと練習しないから、当然コンクールは受けられず、さらに、サボり過ぎて発表会の譜読みがまだ予定の半分しか終わっていない事が判明。もはや発表会にも出られないかも…？ どうする、つむり！？(でもあっさりあきらめそうで怖い。)(トホホお兄)

### つむり現在の楽譜

- ☆ハノン・ピアノ教本
- ☆ル・クーベ
- ピアノのアルファベット
- ☆フォーレ ドリー組曲 Op.56

## 編集部チョイスおすすめの1曲

### たんぽぽのひとりごと(田丸信明作曲)

レベル:★★☆☆

黄色くてかわいい花や  
ふんわりとした綿毛のたんぽぽ。  
見えないところは、地下深くまで根を  
張っていて意外としっかりもの!?  
どんなひとりごとを話しているのでしょうか。

掲載楽譜→  
びあのどリーむ5

